# ステパノだより

10月号　No.236

## 今月の聖句

『体は、一つの部分ではなく、
多くの部分から成っています。』

コリントの信徒への手紙一　第12章14節

## ◎10月の予定

1日(火)～3日(木)　教科テスト（中）
3日(木)　校内研修会
5日(土)　英検
　陸上部県総体（平塚）
8日(火)・9日(水)　入学願書受付（小）
10日(木)　運動会予行練習
12日(土)　運動会
14日(月)　【体育の日】運動会予備日
15日(火)　運動会代休
17日(木)　神私小児童陸上記録会（大和）
　（小5・6年）
　教務委員会
19日(土)　神奈川県小学生陸上競技交流大会
21日(月)　教職員協議会
22日(火)　【即位礼正殿の儀】
25日(金)・26日(土)　小学校入学考査①
　自宅学習（小）
30日(水)～11／1(金)　修学旅行（小・中）

## ◎11月の予定

1日(金)　秋の遠足（小・中）
5日(火)・6日(水)　内部進学者願書受付
6日(水)～8日(金)　体験入学（転入）②

九月十九日に創立六十六周年の礼拝をお献げしました。その中で、永年勤続表彰として和田好江教諭が勤続二十五年で表彰されました。また、多くの児童生徒も表彰されました。

礼拝後は、フルートやピアノ、独唱のコンサートがありました。

## ◎今月の行事から

☆運動会

「元気！やる気!!本気!!!」のスローガン通りに競技や演技に取り組む子ども達に、どうぞ温かいご声援をお願いします。

未就学児、保護者参加のプログラムもありますので、是非ご参加ください。

☆修学旅行

小学校は、四年ぶりに二泊三日で奈良・京都に行きます。国宝、世界文化遺産など、よく見てよく学んで欲しいです。奈良の奈良基督教会、京都の聖アグネス教会と、同じ聖公会の教会も訪れます。

中学校も、四年ぶりに長崎に行きます。原爆関連遺産、潜伏キリシタン関連施設など世界文化遺産などから歴史を学び、考える機会として欲しいです。長崎では、同じ聖公会の聖三一教会も訪れます。

☆秋の遠足

小学校は、一年生から五年生までバスで箱根彫刻の森美術館に行きます。当日は縦割り班で行動します。ステパノならではの縦割り班で他学年との親睦も深めて欲しいです。

中学校は、バスで江戸東京博物館、浅草演芸ホール、浅草寺に行きます。江戸の文化を学び、演芸ホールでは落語も聞きます。楽しい一日となるでしょう。

# 同期の桜の想いで

学園長　小　川　正　夫

いつの間にか七〇年近い歳月が流れていますが、立教大学の学生時代机を並べていた五人の友人が、特に相談したわけでもなく、聖ステパノ学園の働きに加わっていました。殊に、小笠原忍君、猿田順子さん、野村悦子さんは創立初期の頃、澤田美喜さんのよき理解者として積極的に協力していました。

残念ながら今は彼らがみんなで私の働きを天国から見守り応援してくれています。

小笠原忍君は立大の英文科から日本聖公会神学院に進み、聖職の道を選び、東京聖十字教会でハンマー司祭と共に教会を守っていました。六〇年前、私たちの結婚式で司式をしてくれました。晩年は、聖ステパノ学園の理事、E・Sホームの理事長として学園を支えてくれました。数年前、体調を崩し、元気をなくしましたが「僕の結婚式を司式してくれたのだから、葬式も頼みますよ」と話したところ、にこにこ笑っていました。

野村悦子さんは史学科の才媛で、教授の助手をするなど勉強家でした。立教女学院高校の教頭職にもありましたが、学園の草創期、澤田美喜先生の働きを支えました。

私が立教小学校の教頭の頃、聖ステパノ学園の常務理事でもあった元立教小学校の校長の葬送記念式に参列してくれて久しぶりに会ったとき、私が何となく、「この頃物忘れが多くて」と口走ると、すかさず「何言っているのよ、小川君、物忘れじゃなくて物覚えでしょ」という言葉が返ってきて、学生時代に戻ったような気がしました。学生を大事に思う優秀な教育者でしたが、晩年体調が不順で病の中で、「海の見えるホールを見たかったな」と言っていたのに果たせなくなって、今も心に想いが残ります。

猿田順子（堀川）さんは英文科の卒業で学園草創期澤田美喜先生に献身的に協力、学園を支えていました。優しい笑顔で、いつも自分の子どものように学園の子どもたちを受け止める包容力があり、誰からも信頼がありました。還暦を迎えた卒業生と親しげに話している笑顔が印象に残ります。

まっすぐで純粋な性格でしたので、澤田美喜先生と意見が対立することもありました。

学生時代の思い出は、九〇分の授業で三〇分近く先生が見えないことがありましたが、その時、猿田さんは黒板の中央に大きく「本日休講」と書いて、さっさと帰ってしまい、図書館に行ってしまいました。

立教学院で仕事をしていましたが、私が聖ステパノ学園に赴任した後も学園の教育を支えてくれました。天国に召された後も、遺言で遺産を、学園に寄付してくれました。

大久保忠昭君は心理教育学科に在籍していたかと思いますが、学生時代から教会活動に情熱的に参加し、どこに行っても大久保君がいるという程、立教では名物男でした。海上自衛隊の高官でしたが、湘南立教会でも活躍、聖ステパノ学園の事務長として、学園の新しい歩みの礎を築いてくれました。「聖ステパノ学園は他の学校と違って、先生が子ども達を選ぶのではなく、先生は子ども達に必要な人として、子ども達から選ばれている」と言ったのも彼でした。

宮内庁にも自由に出入りできるほど名門の家柄で、聖ステパノ学園に、天皇皇后両陛下をお迎えすることができたのも大久保事務長の功績でした。その時、私はお話する機会に恵まれましたが、「聖ステパノ学園の教育は、お国にとってとても大切なお仕事です。子ども達をよろしくお願いします」と言われた美智子皇后さまの言葉と優しい笑顔は今も印象に残り、言葉の意味は大きいと思います。

石山誠君は経済学部から大手の企業に進まれましたが、立大のグリークラブで活躍、定年後、聖ステパノ学園の事務職に就職、総務課長として県私学振興課との事務連絡、学園の営繕管理に尽力、よく大久保事務長、校長を補佐してくれました。気取らない穏やかな人柄で、週ごとに小田原の合唱団でコーラスの練習に出かけるのを楽しみにしていました。

週末のある日、練習に出かける電車の中で倒れ、意識が戻りませんでした。

みんな聖ステパノ学園での私たちの働きを支えてくれた人たちで、彼らから励まされたことがたくさんありました。

# 第六三回事務職員夏期学校に参加して

庶務　新庄　主来

第六三回事務職員夏期学校は御殿場の東山荘で行なわれました。

主題は「キリスト教学校で事務職員として働くとは？」です。

実際にこの夏期学校に参加させて頂き、学んだことが三つあります。

一つ目は、夏期学校に参加している半分以上の方がノンクリスチャンであることでした。

確かに、日本はクリスチャンが少ないことは知っています。それでも、私の中では、キリスト教主義の学校で働く大半の方はクリスチャンなのだろうと勝手に思っていました。改めて、日本におけるキリスト教の現況を知り、驚きました。

二つ目は、「キリスト教学校で事務職員として働くとは？」この課題に対し、夏期学校長の湯口氏は「キリスト教学校は建学の精神に則り理念を高く揚げ、キリスト教教育とその意義を示していく必要がありますが、ノンクリスチャンの教職員の方々の関与と視点は教育の多様化からも極めて重要です。教職員が一体となって課題と内部の改革を推し進めなければなりません。」と語られていました。

また、「帳簿がいかに重要であるかは中世イタリアの都市やメディチ家の盛衰を見ても明らかです。教育と知的エリート主義に陥り、金銭を低級なものとして帳簿管理をおろそかにしたことを衰退の一因として挙げています。今日の学校教育が直面する課題も経営、財務、教育の質の向上の両面によらなければ適正な答えが見つからないと感じています。」とも語っておられました。

初めて、事務職に就いた私にとって湯口氏のお話は大変難しく、果たして自分に務まるだろうかと不安になりました。

正直、今の自分を覚えると、あまりの力のなさに一歩も前に進めなくなります。でも、「私は私を強くしてくださる方によってどんなことでもできるのです。」（ピリピ人への手紙四章一三節）

と聖書に記されている御言葉を信じて、日々祈りつつ、事務長や事務次長の指導を仰ぎながら、与えられた仕事を一生懸命やって参りたいと思います。

三つ目は、今回、講師として招かれた松谷氏のお話しを通して。

松谷氏は、講演の中で、どうして日本ではキリスト教が広まらないのか、と言う問題に触れられ、その原因はクリスチャンにあると語られました。非常に痛いご指摘ですが、素直に頷ける言葉です。

例えば教会に初めて来た人の動機が不純であると分かったときに、真面目にクリスチャン生活をしてきた人―そう自負している人は、そのような人たちを受け入れることができないことです。しかし、教会に来た目的が不純であったとしても、その人が少しでも教会に興味を持ってくれたらいいのでは。と松谷氏は語っておられました。

クリスチャンの模範は、常にイエス様だけです。

こんな時、イエス様だったら、何とお答えになり、どのように行動なさるか―クリスチャンが皆、『キリストの心』で歩んでいたら、人を躓かせるようなことはないと思います。なぜなら、イエス様はそのすべてが「愛」だからです。

そのために私はいつも御言葉（イエス様）を拝読し、一人でも多くの人が私のように、イエス様の素晴らしさを体験して下さるようにお祈りしています。

最後にこの度、夏期学校に参加させて頂き、有意義な時間を過ごすことができましたことを心から感謝いたします。

# 特集　心の教育「喜んで働く心を育む」

## 奉仕

教諭　咲間　直人

「人にしてもらいたいと思うことを、人にもしなさい。」「互いに愛し合いなさい」と聖書には書かれています。奉仕は無償の愛の実践、そのものであり、イエス様が望まれ、神様が喜ばれる行いです。しかしながら、奉仕は目に見える行為のみで良しとされるのではなく、どのような思いで行うかが大事です。

聖ステパノ学園では日々の礼拝で奉仕の役割を担う礼拝奉仕者（アコライト）が小・中学校合わせて三十名以上います。毎年アコライトとして任命される子達に「仕える者のようになりなさい」という聖句を伝えています。奉仕の心構えは「してあげる」ではなく、「させていただく」です。したがって、「アコライトだから行う」という考え方は本来の形とは違います。この考え方だと役割が土台にあり、その上に意思があります。正しくは、「させていただく・させてほしい」という意思があり、それが結果としてアコライトとしての役割を担うということです。義務感のみで行うものには限界が来ます。

奉仕を通して、誰かに喜んでもらえたという経験は、自分自身の喜びとして感じることができます。そのような喜びを与えられたことに感謝の気持ちも芽生えます。それは貴重な経験ですし、他者を思いやることにつながります。しかし、これではまだ不十分です。なぜなら、そこだけに重点を置くと、相手が喜んでくれなかった場合に、不快感を覚えてしまうかもしれないからです。「人に喜んでもらうこと」は、奉仕の結果としてあるものであり、主目的ではありません。奉仕の本質は「イエス様、神様が喜ばれること」を自ら進んで行い、それが自身の喜びとなることです。だからこそ、そこに人からの見返りは求めませんし、徒労感に襲われることもありません。

先日ふと、卒業生の子に「アコライトとして過ごして良かった？」と尋ねた際に「勿論です。仕えることを学び、イエス様に喜ばれているということを感じました。」という言葉が返ってきました。ぜひそのような経験を積み重ねていってほしいと願っています。

## 花いっぱい活動

教諭　高桑　恵

小学５・６年の児童が月に一度、大磯駅前プランターの手入れをするボランティア活動をしています。水やりや花がら摘み、プランター周辺の清掃をしています。また、半年に一度くらいの割合でお花の植え替えもしています。大磯町のプランターを使用していますが、水を蓄えておくタンクが故障しているため、お花をきれいな状態で保つことがなかなか難しい状況です。そんな中でも、暑さに強いお花を選び、空いた時間に水やりをするなどして育てています。

花を植えるだけの簡単な作業ですが、土が沢山の空気を含むように念入りに耕し、根が傷まないように気をつけて優しく土をかぶせます。花苗と花苗との間隔をどのくらい空けるかということも注意して行います。

夏休み中は、回数を増やして週に二回交代で水やりを行っています。暑い中での作業はかなり大変です。そんな中、町の方から「いつもありがとう。」「きれいになってうれしいわ。」などと声をかけていただくことで地域の方々が気持ち良く生活するために子ども達の活動が役立っていることがわかり、大変励みになっています。周りの人を幸せな気持ちにすることが子ども達自身の喜びとなることを知り、地道な活動を続けていくことの大切さに気付けるような体験を今後も長く続けていくことに意味があると考えています。

## 飼育

教諭　中村　弘之

『グワッ、グワッ（遅いじゃない。お腹空いた）。』『コッコ（早く外に出して。）』と学校に着くなり賑やかな出迎えだ。

飼育小屋のメンバーは、ウサギのミルキー♀、メル♀、マーブル♀。9月に死んでしまった（老衰）ココとミルキーの子どもがメルとマーブル。ココが茶色、ミルキーが白なのでメルとマーブルは白と茶色。合鴨のピーちゃん♀。マガモとカルガモのハーフ。仲良しのアイちゃん♀が一学期に死んでしまったので（老衰）去年仲間入りしたアローカナというニワトリと一緒に行動している。

アローカナというのは青い卵を産むニワトリ。しかし、1年に数個しか産まないので多産種の白色レグホンと掛け合わせてある。だから毎日卵を産む。確かに青灰色ではあるが、実は合鴨の卵の方が青灰色が濃い。委員は、アローカナという名前のインパクトが強いため、名前もアローカナにした。アロちゃんと呼んでいる。

始業前に、「世界一きれいな飼育小屋を目指そう」を合言葉に小中学校の飼育委員が毎日3、4人ずつで掃除をする。暑い日も寒い日も長期休みの時もしている。生き物を飼うというのはそういうことなのだ。始めの頃は「くさい。」「汚い。」「面倒臭い。」という子もいるが、そのうち慣れる。毎日世話をしていると動物の気持ち（調子）が分かるようになる。

『動物は飼い主に似る』というが、ステパノの動物たちは穏やかだ。それは接する子ども達が一人も荒い接し方をしない証拠だ。誰かが陰でいじめたりすると、動物はいじけたり、荒くなったりする。動物と接している子ども達の笑顔はやさしい。

## 週番

教諭　飯田　幸子

「週番」の朝の働きは、七時四〇分開始です。中学校所属だった頃、校舎の鍵を開けるために七曲りを上っていくと、森の中から「サッサッサッサッ」と箒の音だけが聞こえてくることが度々ありました。秋になると、それはたくさんの葉が落ちるので上級生の中にはずいぶん朝早くから登校し、所定の時間までに作業が終わるようにと箒で落ち葉を集めている生徒が何人もいて、「週番」というと今でも彼らの顔が思い浮かびます。

小学校は五・六年の四人、中学校は中一から中三の四人と各一名の教員で、一週間活動します。その内容は、朝は外掃除、ごみ出し、窓開け、礼拝のお祈り、帰りは戸締りが主ですが、中学校は流し場の掃除などの昼休みの活動もあります。

しかし、一番の働きは「一週間の目標」を設定し、その目標が達成できるように週番自ら率先して行動し、他の児童生徒に働きかけるということだと思います。週番の目標の設定や発表、引継ぎ、反省も小中一貫教育の流れの中で一緒に行っています。週の目標は生活指導委員会で設定された一年間の生活努力目標に沿って、その週の目標を児童生徒が考えて決めています。例えば、九月最終週は月目標が「服装、言葉遣いに気をつけて生活しましょう。」そして、週目標は小学校が、「運動会が近いのでしっかり準備しましょう。」中学校が、「教科テスト・運動会が近いので健康管理に注意しましょう。」といった具合です。

「週番」の活動は、聖ステパノ学園心の教育の「謙遜な気持ちで神様に祈る心を育む」「人のために尽くす心を育む」「喜んで働く心を育む」「自然に親しむ心を育む」ということと大きくつながりのある働きであると思います。

**【小学校】9月7日にステパノまつりがありました。初めて経験した一年生と二回目の企画に挑戦した五年生の作文を紹介します。**

すてぱのまつりでえいがをみました。のっぺらぼうのまんとがたのしかった。

（小一　ＴＪ）

すてぱのまつりをしました。ぼくは、てつどうのとうかいどうせんのれっしゃをはしらせました。はやかったです。

（小一　ＳＲ）

すてぱのまつりをしました。ぼくは、わたあめをかいました。わたあめは、ふわふわしておいしかった。

（小一　ＳＡ）

９月７日土曜日朝から聖ステパノ学園で、５年生は、たこ焼き係とワッフル係とタピオカミルクティー係に分かれて、「ひと息カフェ」をやりました。ぼくは、たこ焼きのトッピング係でした。

お店は朝からこみ合っていて、いそがしくなりそうだな、一日大変そうだなと思いました。働いてみると、とても暑くて、本物のたこ焼き屋さん達は、もっと暑い思いをして働いているんだと気付きました。

ぼくは、たこ焼きが大好きで、よくお母さんに買ってもらいます。これからは、暑い思いをして、おいしいたこ焼きを作ってくれる店員さん達に、感謝の気持ちを持って、たこ焼きを食べたいなと思いました。

（小五　ＫＨ）

今日、ステパノまつりでした。まつりの前日は、緊張と楽しみがありました。当日は、めちゃめちゃ緊張していましたが、だんだんなれて、声もちょっとずつ大きくなっていきました。ワッフルは百個以上売れて、すごい！と思いました。何よりすごかったのは、ステパノまつりが終わる一時間前に完売したことです。こんな経験はじめてです。すごかったのは、代表委員のバンドです。みんな盛りあがっていて、自分もすごく盛りあがってしまいました。とても楽しいステパノまつりになりました。

（小五　ＫＳ）

**【ステパノかるた】その４**

のんびりと
お散歩するよ
アローカナ

りくじょうぶ
練習かさね
速くなる

**【中学校】ステパノまつりにたくさんの方のご来場ありがとうございました。初めて実行委員を経験した中二生徒の感想です。**

## 令和初のステパノまつり
### ―実行委員として

今年のステパノまつりのオープニングでは、まつりを盛り上げるために、実行委員でバンドを作りました。ボーカルとギターとベースとドラムとピアノ、その中のボーカルが僕です。皆、初心者で、三ケ月前から練習をしてきました。僕は練習の始めの頃、大きな声が出せなかったです。でも、だんだん練習していくうちに、みんなも上手になり、僕も少しずつ声を出すことができるようになってきました。本番、思いのほか、たくさんの人が聴いてくれました。アンコールの声もあり、良かったです。オープニングが終わった後、皆から「とても良かった。」とか、「かっこよかった。」などと声をかけられました。来年は、もっといいバンド演奏がしたいです。

僕は今年で二回目のステパノまつりですが、去年より今年の方が何十倍も良かったです。去年は千人、今年は千二百人が来てくれました。来年は千五百人を目標として、ステパノまつりを盛り上げたいです。

（中二　ＳＳ）

**十月の十二日に予定されている運動会。今年の赤白両団長は、小一からずっと一緒にステパノで育った、中三の二人の女子です。二人の声を二か月連続でお届けします。**

## 赤組団長

団長発表の時からとてもワクワクしています。それとは別に、とても不安に思っていることがあります。それは、みんなを引っ張っていけるか、です。まだあまり話したことのない子もいるので、まずは私からその子のことをわかろうとすれば、相手もわかってきてくれるんじゃないかと思います。同じ組の皆と一つになれるように頑張りたいです。今年が最後の運動会なので、「今までで一番」と思って終われるような運動会にしたいです。

（中三　ＦＪ）

## 白組団長

今年、団長をやります。正直、今は不安の方が大きいです。でも、小一からやってきて、今年で最後なので、悔いがないように全力でやりきりたいと思います。そして、皆が、白組で良かったなと思えるようにしたいです。一緒の組になった人は、優勝目指して頑張りましょう！よろしくお願いします。

（中三　ＳＮ）

**連載【ステパノ散歩】―私の好きな場所―**

## 海の見えるホール

七曲りを登ったら目の前に現れる、「海の見えるホール」は、舞台と客席があり、目の前に見える景色は太平洋。最高です。でも、夏は枝が伸びてしまって、ちょっと見えづらくなってしまいますが。

ホールは、海側のカーテンを閉めた時と開けた時では、ぜんぜん違う場所みたいになります。閉めた時はきちんと感がある雰囲気で、開けた時は、外の景色が見えて、かた苦しい感じじゃなくなり解放感にあふれています。私はカーテンが開いている方が好きです。でも、ホールのカーテンを全部閉めて、ステージの幕も閉めると、いつもと違う感じがしてそれもまた好きです。

こんなにすごいホールが建っているのを、自分は他では見たことがないと思うので、毎回ホールを使うたび、うれしいなあ、と思っています。

来年の三月は、このホールで卒業証書をもらいますが、まだ実感がありません。

（中三　ＮＳ）

**次回もお楽しみに。**

微笑みを絶やさず穏やかな、小学校教頭の長谷川誠子先生を訪ねました。

―ステパノにいらして何年ですか。

「三十五年なんです。大学の先生の紹介でステパノで働き始めました。二十歳になったばかりの頃です。最初はホームのお子さんだけでした。自分を見てほしい、構ってほしいという子ども達の気持ちに戸惑いながら、日々対応を考えていました。親と離れて暮らす子ども達の気持ちや状況が本当の意味でまだ理解できていなかったと思います。クラスの人数も先生方もとても少ない時代でした。」

―一九九三年、通学生が入学するようになりました。

「最初はホームの子の気持ちが少し心配でしたよ。家族とは会えない子ばかりでしたから、家庭から通う子を見てどう感じるかなってね。でも、いろいろな子どもたちがいることは何よりも学びになるのですね。開かれた学校になってよかったなと思いますよ。」

―ステパノで好きな時間は。

「朝すぐ教室に行って、子どもたちが順番に話すのに耳を傾けるときでしょうか。何気ない内容なんですけど、大勢いるときには話せないことも話してくれてすごく楽しいし、様子もよくわかります。給食の時間も好きです。とってもおいしくてね(笑)。好きな行事は運動会ですかね。子どもたちが元気にやっている姿を見るのが楽しいです。」

―先生はどんなお子さんだったのですか。

「活発な子でした。体を動かして、外で遊ぶのが好きでした。」

―お忙しいと思いますが、どのようにリフレッシュを。

「仕事から離れてのんびりと映画を観たりショッピングをしたりして、好きな時間を過ごします。」

―ステパノはどんな学校ですか。

「個々の先生たちが勉強熱心で、愛情深いですね。何か問題が起こった時『まぁこれでいいや』とせず、子どもがクリアできるまで長い時間をかけます。どの子も絶対に成長していくし、それぞれがいいものを持っているので、それをうまく発揮できるように見守っています。小規模なので、先生と子どものかかわりも子ども同士のかかわりもすごく深くて、学び合える学校ですね。」

気が付いたら三十五年が過ぎていたという長谷川先生。学園の変化を見守り、新しいことを取り入れながら軽やかに勤めてこられたように感じました。子どもたちの個性を認めるように、先生同士の個性も受け入れながら、良い職場環境を作っておられる素敵な先生です。

## STEPHEN'S NEWS

○実用英語技能検定　3級合格　中2　KS
○日本漢字能力検定　7級合格　小5　SS
　10級満点合格　小2　TG
○第53回児童水泳記録会
・5年男子　25m平泳ぎ　OT、KR
　25mバタフライ　KK　25m自由形　KS、SS
　50m自由形　KK、OT
　100mリレー　KK、OT、KR、KS
・5年女子　・6年男子
　25m自由形　MA　25m自由形　SK、KF
　50m自由形　MA　50m自由形　KH
○神奈川県私立中学校陸上競技大会
　1年女子800m　第7位　YA
　1年男子砲丸投げ　第1位　TR
○中郡中学校総合体育大会
　男子共通　砲丸投げ　第2位　TR
　女子共通　1500m　第2位　YA
　男子共通　400m　第2位　AS　第3位　KY
　男子共通　4×100R　第2位　IM、AS、UM、AS
○男子駅伝競走　第2位
　UM、KJ、MK、KY、NK、GS

【編集後記】

運動会本番が、心ひとつになるよう日々練習を重ねている子ども達です。(ひ)

代表者　学園長　小川　正夫
発行者　聖ステパノ学園小学校・中学校
　　ステパノだより編集委員会
〒255-0003　神奈川県中郡大磯町大磯868
TEL　0463-61-1298
FAX　0463-61-9739
http://www.stephen-oiso.ed.jp
二〇一九年十月七日（月）発行　第236号